

電子書籍

出典: フリー百科事典『<http://ja.wikipedia.org/wiki/>』

移動: ナビゲーション, 検索

電子書籍(でんししょせき)とは、これまでのインクを利用した印刷物ではなく、パソコンや携帯電話・携帯情報端末 (PDA) などの電子機器のようなディスプレイを利用したメディアで読むことができる出版物であり、主に以下の形式が存在する。

パソコンや携帯電話・携帯情報端末 (PDA) などにダウンロードして閲覧するタイプ

電子書籍概要

これらのコンテンツは、従来は紙などの媒体に印刷することに依存していた書籍を、電子化(画像データや文字データの集合へと変換する)することで、その収納場所の軽減による省スペース化や印刷コストの軽減・流通の簡便化を狙った物である。

特にコンピュータネットワークを利用することで、書籍を購入したら取り寄せなどで待たされる事も無くその場で読める他、データ化することによって在庫を持つ必要が無くなり、日々膨大な量が出版されている書籍などにあって常に付き纏う絶版等の問題に悩まされなくて済むなどの利点が挙げられる。

また、最近では電子書籍の普及が紙資源の消費を減らすことから地球の緑化運動にも貢献すると考えられている。

このアイデアは 1980 年代よりあったが、当時は通信コストが高い事や再生用のコンピュータの能力が足りなかったために、実際の動きが見られるようになったのは 1990 年代後半に入ってからである。

以前より、テキストファイルによるコンテンツの提供がプロジェクト・グーテンベルクや青空文庫などで著作権切れ作品の有志によるテキスト化や著作者自身によるコンピュータネットワーク上での配布もみられた。

最近ではコンテンツ課金の方法が整備され、有料メディアとして小説以外にコミックや雑誌、写真集などの電子書籍もある。

大きく分けてダウンロード型とオンライン閲覧型の 2 つの形態が存在し、ファイル形式やデータ形式もさまざま、日本国内だけでも 20 種類以上のファイルフォーマットが存在する。

電子書籍は紙や印刷などのコストが無い分、その価格が安いものであると思われがちだが実際には複雑な権利関係のために、従来の印刷物より高い作品が存在する。

その例としてはフランス書院の電子書籍などがある。また、その権利関係ゆえに世間で話題の新作がすぐに電子書籍として発売されるケースはまだまだ少ない。

パソコンや携帯電話・携帯情報端末 (PDA) などにダウンロードして閲覧するタイプ

インターネットにある電子書籍書店などのサイトから、必要なデータを端末にダウンロードして読むのがこのタイプである。

データの形式は各書店サイトが推奨するリーダーソフトによって多くの種類が存在し、AdobeReaderで閲覧するPDF形式やシャープのXMDF、携帯電話でコミックを読むためのセルシスのコミックサーフィンなどがある。

携帯電話の場合は、キャリア毎の端末機の仕様のため、実際には、KDDI(au)、ソフトバンクモバイルがダウンロード方式でNTTドコモは、ストリーミング方式である。

2003年11月に、はじめて携帯電話でダウンロード方式のコミック配信をビットウェイ社が開始した。

携帯電話のコミック用ビューワーは、当初ベクトル形式のコミックサーフィンとラスター方式のビットウェイビューワー(ビットウェイ社製)の2方式で始まった。その後、コミックサーフィンにラスター形式の機能が実装された。現在では、ラスター方式が主流である。